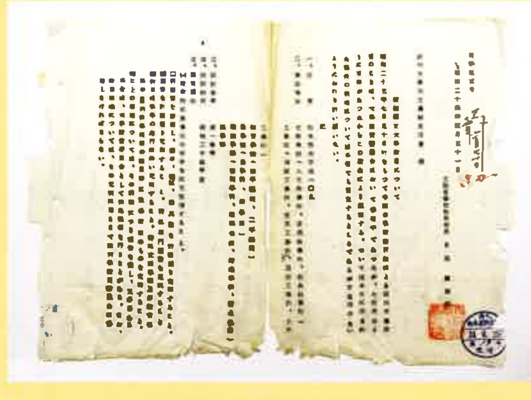
～ 信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業関連イベント ～

信州大学大学史資料センター企画展

信州大学 今昔（いま むかし）

■場所■ 信州大学中央図書館 1階展示コーナー

◎ 開催日などはセンター WEB ページをご覧ください



信州大学設立時の行政文書 昭和24（1949）年 大学本部 蔵

信州大学は、戦前に設立された前身校の伝統を引き継ぎ、1949年6月1日に開学しました。本展では、創立当初の姿がわかる資料や写真を展示し、現在までの大学の移り変わりなども紹介します。

開学記念写真 昭和25(1950)年 中央図書館 蔵

主催：信州大学附属図書館　信州大学大学史資料センター

お問い合わせ先（平日9:00-16:00）▶ 信州大学大学史資料センター　〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号　TEL 0263-37-3531　FAX 0263-37-3532　E-mail archives@shinshu-u.ac.jp

センターWEBページ

「信州大学」誕生秘話

大学史資料センター特任教授　福島正樹

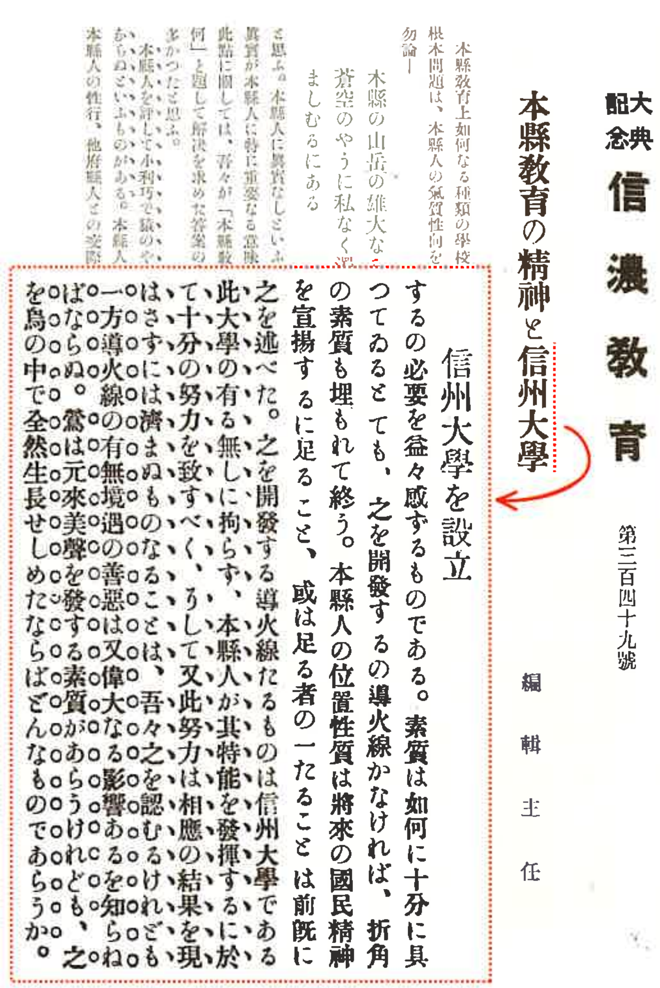
1949年（昭和24）5月31日、信州大学は、国立の新制大学69校の一つとして、長野県下の高等教育機関7校を集めて発足しました。文部省は「1県1大学」、名称は原則として都道府県名を用いる方針を示しました。これに従えば、「長野大学」とすべきところ、本学は日本で唯一旧国名（信州＝信濃国）を冠した大学名としました。

「信州」が採用された経緯を調べてみると、実は「信州大学」の呼称は明治時代後期にまでさかのぼります。1899年（明治32）、長野県に高等学校を誘致したいという運動が起り、1919年（大正8）に松本高等学校の開校が実現しますが、この運動の中で、長野県に「信州大学」を設置したいという動きが生まれました。1915年（大正4）、長野県の教員で組織された教育団体「信濃教育会」の機関誌『信濃教育』の論文にも「信州大学」の設置を要望するという主張が表れ、以後戦前を通じて大学の名は「信州大学」とされてきたのです。

「長野」ではなく、なぜ「信州」か。それは「長野」が信濃国全体を表す地名としては県民に浸透しなかったという点があります。

「長野県」の名は、1871年（明治4）に県を設置した際、県庁を長野村（現長野市長野）に設置したことに由来します。県の範囲は、現在の長野県北部と東部で、中部と南部及び飛騨地方は筑摩県とされ、信濃国は2つに分かれていました。1876年（明治9）、長野県と筑摩県は合併し、現在の「長野県」が誕生しましたが、多くの県民、特に中南信の人々にとって「長野」は帰属意識の薄い地名でした。

明治30年代、信濃教育会は全県を対象とした教育活動のスローガンとして「信州教育」「信濃教育」を掲げるようになり、信州全体をまとめあげる地域愛を歌い込んだ唱歌「信濃国（しなののくに）」も生まれました。明治30年代以降、長野県民全員の郷土意識をかなえる「信州」は無くてはならないものになり、それが1949年（昭和24）の「信州」大学の誕生へと繋がっていったのです。



大典記念 信濃教育 第三百四十九號

本縣教育の精神と信州大學　編輯主任

本縣教育上如何なる種類の學校……根本問題は、本縣人の氣質性向を……勿論―

本縣の山岳の雄大な……蒼空のやうに私なく澄……ましむるにある

と思ふ。本縣人に異質なしといふ……異質が本縣人に特に重要なる意味……此點に關しては、吾々が「本縣教……何」と題して解決を求めた答案の……多かつたと思ふ。本縣人をいやしいといひ、小利巧で猿のや……かいひ、ぬといふものがある。本縣人……本縣人の性行、他府縣人との交際……

信州大學を設立するの必要を益々感ずるものである。素質は如何に十分に具つてゐるとても、之を開發するの導火線がなければ、折角の素質も埋もれて終う。本縣人の位置性質は將來の國民精神を宣揚するに足ること、或は足る者の一たることは前既に之を述べた。之を開發する導火線たるものは信州大學である此大學の有る無しに拘らず、本縣人が其特能を發揮するに於て十分の努力を致すべく、うして又此努力は相應の結果を現はさずには濟まぬものなることは、吾々之を認むるけれども一方導火線の有無境遇の善惡は又偉大なる影響あるを知らねばならぬ。鶯は元來美聲を發する素質があらうけれども之を鳥の中で全然生長せしめたならばどんなものであらうか。

▲『信濃教育　第349号』（信濃教育会、大正4年11月10日発行）に掲載された記事。長野県内に「信州大学」という名称の学校を設置する意向を示している。

唱歌「信濃國（しなののくに）」

浅井洌書「信濃國」大正6年（1917）
教育学部図書館 蔵

信州大学教育学部の前身校である長野県師範学校の教員であった浅井洌（作詞）と北村季晴（作曲）による「信濃國」は、1900年（明治33）に発表され、師範学校から巣立った教員たちが県内各地の学校で教え伝えたことによって広く普及しました。歌詞には、長野県各地の地理、風土、著名人物などがバランスよく散りばめられています。

長野県民に愛され、1968年（昭和43）に県歌に制定されました。

県内に点在するキャンパス

長野県（信州＝信濃国）の地図

長野県は南北に長く、主な平地が山々で隔てられており、歴史、文化、気候風土、人々の気質などが異なる4つの地域（北信、東信、中信、南信）に大きく区分されています。

信州大学を構成する8学部は、それぞれの前身校の所在する4つの地域にある5つのキャンパスに分かれて点在しています。個性あふれる各キャンパスの特色を生かした大学名の冠として、「信州」はふさわしいものといえるでしょう。

大学史資料センターとは？

みなさん、はじめまして。

本展を企画した"信州大学大学史資料センター"の福島です。当センターは2019年に本学が70周年を迎えるにあたって、2017年4月に大学附属図書館のもとに設置された組織です。

本展示でもご覧いただいたように本学は100年以上に渡る長い歴史を有しています。しかし、この歴史を明らかにする重要な資料が現在散逸の危機にあります。そこで当センターは、各学部その同窓会・校友会などと連携し、資料の収集・整理・保存をすすめ、公開・展示等を行い、本学の歴史を将来に伝える役割を担っています。今後はそれらをデジタル化し、インターネット上で公開することも予定しています。このように、資料の面から信州大学の歴史を守っています。みなさまからの情報提供もお待ちしています。どうぞよろしくお願いいたします！

平成31年3月発行